茨木市立福井小学校　茨木っ子グローイングアップ計画

令和元年１０月作成

1 ３年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	実践的教育活動を校区内で統一する	① 合同授業研等で、連携カリキュラムを有効に活用する。 ② つながり力の育成に向けて、それぞれ（各校園所、各学年）が授業で何を大事にすべきかを明確に持つ。	① 連携カリキュラムの見直し、修正について検討する。 ② 各校、子どもが主体的・対話的に学ぶ授業に取組み、それぞれの実践を各校が交流し、取り入れる。	① 連携カリキュラムに必要な項目について検討し、追加作成を行う。 ② 校区全体で子どもが主体的・対話的に学んでいる授業を実践する。
確かな学力の育成	算数科を通して、論理的思考力を育む	・福井小スタンダードの徹底 ・学習の約束を教室に掲示 ・「聞く・話す」活動の推進 ・算数アンケートの活用 ・計算タイムの継続 ・思考したことを記述できる力の育成 ・論理的に説明する力の育成	・外国語活動の授業実施 ・外国語活動の授業研究 ・論理的に説明する能力の育成（算数科） ・授業力の向上 ・主体的な研究授業、公開授業の実施	平成30度の取り組みの継承と深化 ・外国語授業実施 ・外国語活動の授業研究 ・論理的に説明する能力の育成（算数科） ・授業力の向上 ・主体的な研究授業、公開授業の実施
豊かな人間性を育む	子どもどうしがつながる集団	・近隣園校との交流 福井幼稚園（避難訓練、おもちゃ祭り、体験入学、チャイルドカーニバル） 茨木支援学校（交流会） 福井高校（英語・町たんけん） ・スマイル週間（人権週間） ・ペア学級の交流（読み聞かせ・計算タイム）	・交流行事の精選を行い、校内 の他学年交流の機会の充実 ・人権教育の推進 ・集団づくりの推進 ・豊かな人間性を育む道徳教育の推進	・交流行事の精選を行い、校内の他学年交流の機会の継承と深化 ・人権教育の推進 ・集団づくりの推進 ・豊かな人間性を育む道徳教育の推進
健康・体力の増進	体力の向上を目指して	・多様な動きの育成 茨木っ子運動を運動会や授業の準備体操で取り組む ・授業力の育成 全職員スポーツテストに向けて講習を受講 ・体つくりの向上 マラソン週間・大会の設定 なわとび週間の設定	平成29年度の取組みの継承 ・全学年で取り組める体力向上カリキュラムの作成 ・体力テスト結果を踏まえて課題解決に向けて考察	平成30年度の取組みの継承と深化 ・年間を通して全学年で取り組める体力向上カリキュラムの実施 ・体力テスト結果を踏まえて課題解決に向けて取り組む
支援教育の充実				

2 今年度の結果と取組みについて

（1）全国学力・学習状況調査

○●国語●○

（領域ごと）

①話すこと･聞くこと	課題が残る結果であった
②書くこと	概ね良好な結果であった
③読むこと	概ね良好な結果であった
④言語事項	課題が残る結果であった

（問題形式）

①選択式	やや課題が残る結果であった
②短答式	やや課題が残る結果であった
③記述式	課題が残る結果であった

（無解答率） やや課題が残る結果であった

（その他）

文書の中から資料がどのような目的で用いられているのか選択する設問に対する正答率は高かった。同音異義語を書く設問や字数制限のある記述式の設問に対する正答率が全国に比べて低かった。また、話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する設問の正答率も低かった。

分析

〈福井小の子どもたちの課題〉

・新出漢字を日々学習しているが、漢字の持つ意味を理解し、使い分ける力に課題がある。
・字数制限や条件のある中で文章をまとめる力に課題がある。
・作文で一文が長くなることが多く、接続詞を使うことに慣れていない。

〈課題克服のために〉

・新出漢字を学ぶだけではなく、熟語を作る機会を作る。
・「ことばの力プリント」を活用する。
・字数制限のある中で考えをまとめる活動を国語の学習で行う。
・作文では、接続詞を適宜使うよう指導する。
・どの教科の学習でも、自分の考えとそう考えた理由を記述・発表する。
・朝の会、帰りの会や授業で友だちの発表を聞いた後、質問をする時間を設ける。

○●算数●○

（領域ごと）

①数と計算	概ね良好な結果であった
②量と測定	概ね良好な結果であった
③図形	やや課題が残る結果であった
④数量関係	概ね良好な結果であった

（問題形式）

①選択式	概ね良好な結果であった
②短答式	概ね良好な結果であった
③記述式	概ね良好な結果であった

（無解答率） 概ね良好な結果であった

（その他）

グラフから資料の特徴や傾向を読み取る設問では、正答率が高かった。記述式の設問でも全国に比べて正答率が高い。一方、図形の性質や構成に着目し、他の図形を構成する設問の正答率が全国に比べて低かった。

分析

〈福井小の子どもたちの課題〉

・図形の性質や構成要素に着目して、図形を観察したり構成したり、図形について筋道を立てて考察する力が身についていない。
・加減乗除法に関して成り立つ性質を生かして計算をする力に課題がある。
・除法の意味を理解して、工夫して計算し、簡単にするなどの数学のよさに気づいて生活や学習に活用しようとする力が育っていない。

〈課題克服のために〉

・日々の授業でホワイトボードなどを使って、自分の考えを説明する取組みは継続する。
・他教科と連携しながら、算数で学んだことを生かす授業づくりに取り組む。
（国語や社会の資料の読み取りや理科・家庭科の計算など）
・図形領域の正答率が低いので、具体物を用いて実際に図形を動かしたり、作ったりする活動を継続して行う。
・授業の中で「間違いを説明する問題」に取り組む。
・長い問題文もあきらめずに読み、解くことに慣れさせる。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

ここ数年算数においては、全国平均とほとんど同じ結果となっている。しかし、国語の無解答率は例年と比べて高い結果になった。今年の教科別の平均正答率は、算数は全国を上回る結果となったが、国語は全国平均を下回る結果であった。昨年と逆転した結果となった。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

今年度算数においては、昨年と比べ高位層の割合が少し減り、中位層の割合が少し増えた。低位層の割合は少し減った。国語はエンパワー層の割合が増加し、高位層の割合が大幅に減った。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

【国語】

今年度は国語ではすべての領域で全国平均を下回っており、課題が残る結果となった。特に、同音異義語を答える設問や字数制限のある記述問題の正答率が全国に比べて低かった。学期に一度、校内漢字検定を行い、漢字の定着を図っているが、暗記はしていても漢字の持つ意味の理解が乏しいように思われる。新出漢字を扱う際、辞書引きや熟語作りなどより一層ていねいに取り組む必要がある。また今後も、授業の中で１００字作文や、条件がある中での「書く力」を育む取り組みを行っていき、福井小が日々行っている取組み（①授業で感じたことや考えを書く②宿題の日記、作文、感想文を書くこと）は継続して行っていく。「ことばの力」プリントの活用も、学校全体で取り組んでいきたい。

〈日々の授業でできること〉

・全員発表　・ふりかえりを授業の中で交流　・自分のことばで発表　・班活動で話す機会を増やす
・国語の授業、宿題での音読　・終わりの会でのスピーチと質問タイム　・ペア交流

〈継続して行っている取組み〉

・朝学習（言葉タイム　１～４年）　・学期に１回「校内漢字検定（50 問）」　・作文や日記

【算数】

４領域のうち「数と計算」「量と測定」「数量関係」の３領域は全国平均を上回り、「図形」領域においては課題が残る結果となった。３年間、算数を研究テーマとして取り組んできた成果が出たように思われる。継続して少人数担当と担任が連携して基礎基本+思考力・判断力・表現力を培う学習指導を進めていく。

年間に４回「算数の授業アンケート」を行っている。児童の算数への興味・関心・意欲、理解度、最後まで解いたかを調査し、結果から見えてきた課題を持つ児童に対してきめ細やかな対応ができるように支援していく。

〈授業の流れ〉

①めあての提示（今日のゴールをイメージする）②課題の提示（問題のイメージをつかむ）
③自分で考えてみる・他の方法でも解けないか考える　④友達の考えを自分との考えと比較しながら聞く。友だちの式や図から他者が説明する。（思考を深めていく）⑤どの方法がよいかねりあげる（自分の言葉でまとめる）⑥やってみようとして適用問題を解く　⑦ふりかえりを書く

〈継続している取組み〉

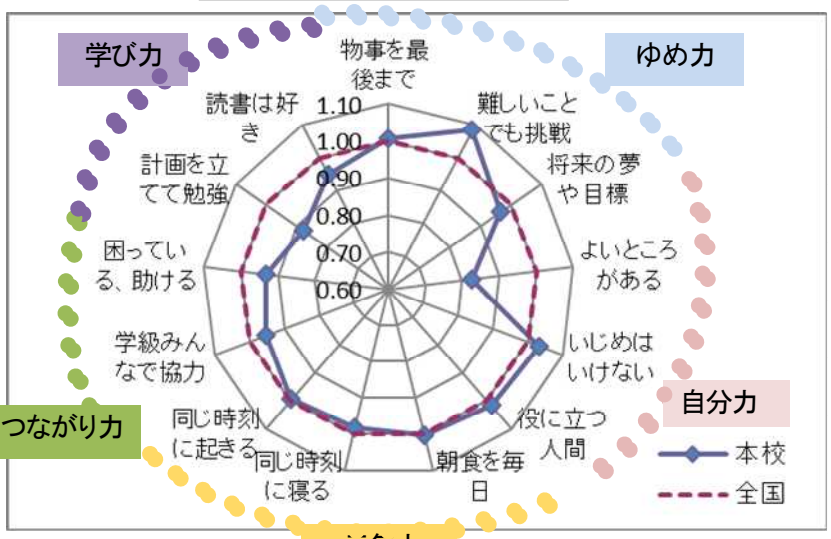
・朝学習（計算タイム）…前年度や前単元の復習問題　・算数ルームの開放
・「算数診断テスト」の活用・校内分析　・研究授業（年３回）

〈今年度の取り組み〉

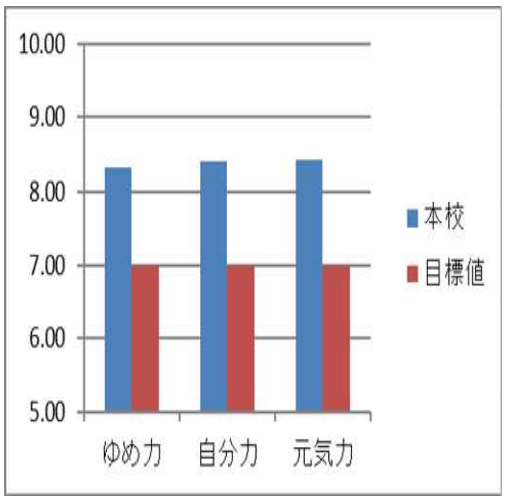
・算数便りの発行　・「力をつけよう問題」の取り組み（５，６年　記述問題）
・算数遊び

○●子どもたちに育みたい力●○

５つの力　全国平均との比較



５つの力　目標値との比較



今年度は質問紙項目が変更になったため、５つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。
そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は１３項目、目標値との比較(棒グラフ)は、３項目とも実施した『ゆめ力』『自分力』と元気力』のみとなっています。

分析

【ゆめ力】

自分の将来への夢や目標を持っている児童が多くみられる。また、最後までやりとげてうれしかったと感じている児童も多くいる。失敗を恐れないで挑戦する項目は全国より大きく上回っている。

【自分力】

「いじめはどんな理由があってもいけない」と児童は認識している。同様に「人の役に立つ人間になりたい」と考えている児童も多い。しかし、「自分によいところがあると思うか」という問いについては全国平均よりも低く、自尊感情が低いことが分かる。

【つながり力】

学級や学年のみんなで何かを成し遂げたりすることへの意欲が全国平均や大阪府平均よりも低い。また、人が困っている時にも積極的に助ける割合が、全国平均、大阪平均よりも低い。

【学力】

家で計画立てて勉強をしていると回答した児童は大阪平均を超えているが、全国平均よりも低い。また、読書が好きと多くの児童が回答しており、普段から読書を親しむ習慣ができている。

【元気力】

ほとんどの児童が「毎朝朝食をとる・ほとんどとっている」と答えている。「寝る時間・起きる時間」に関する項目の回答は全国・大阪に比べて低い。生活リズムの乱れやテレビ・ゲームの時間が長いことが原因として考えられる。

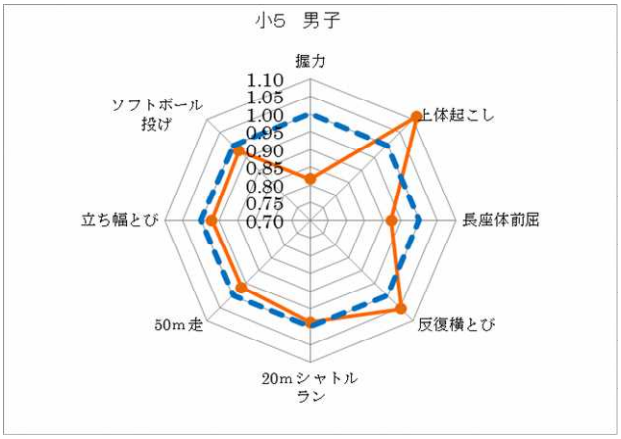
取組み

・北中校区で取り組んでいる家庭学習週間「生活リズムアンケート」（7 日間）を年間５回実施
・福井小スタンダード（学習規律や発言のルール、筆箱の中身等）統一した指導体制の構築
・学級集団を高め、子ども同士がつながる指導（ペア学級、委員会・クラブ活動・地区児童会などの異学年交流）また、日々の授業でも子ども同士をつなげ、学習を進める工夫や、学級活動を通して個々を成長させる活動を進めていく。
・いじめ防止のための取組み（いじめアンケート、学級会、児童実態交流）
・近隣の学校園とのつながり（福井幼稚園、茨木支援学校、福井高校、追手門大学との交流）

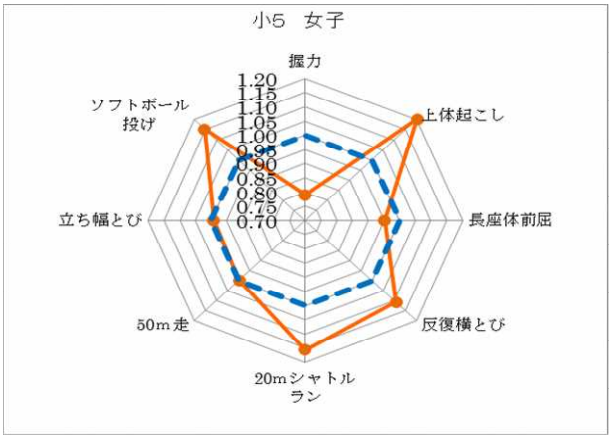
（2）全国体力・運動能力、生活習慣調査

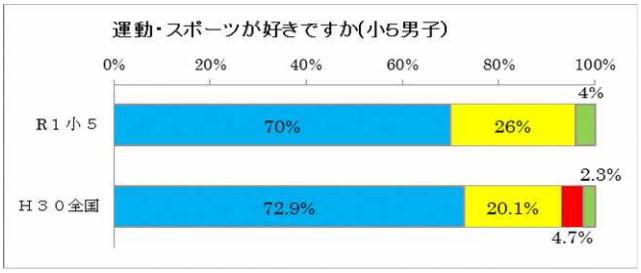
○●体力●○

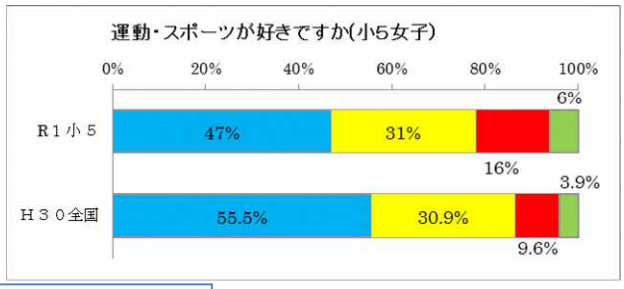
男子（小５）



女子（小５）







分析

＜男子＞

・男子は前年度より「反復横跳び」「上体起こし」の記録が大きく伸び、ソフトボール投げは少し伸びた。
・「長座体前屈」「５０m走」「立ち幅跳び」「ソフトボール投げ」「握力」は全国平均を下回っている。
・「運動することが好きですか」というアンケートに対して、好きと答えた男子児童の割合が昨年度より増加した。

＜女子＞

・前年度より「ソフトボール投げ」「シャトルラン」「反復横跳び」の記録が伸びている。
・「握力」「長座体前屈」が全国平均を下回っている。
・「運動することが好きですか」というアンケートに対して、好きと答えた女子児童の割合が昨年度を下回った。

男女ともに「握力」「長座体前屈」の筋力、柔軟性に課題があると考えられる。

取組み

・全学年、授業開始５分間に茨木っ子運動で体幹トレーニングを実施している。
・スポーツテスト、救命救急などの校内研修会を開き、授業力向上を目指している。
・校外の研究授業に参加し、学んだ教育技術を全体のものにするため伝達研修を行っている。
・全学年で冬のなわとび・マラソン週間の期間中、休み時間になわとび・マラソンを実施している。
・体力向上には、普段の食生活や睡眠時間などの生活習慣も関わってくるので、「生活リズム名人」を行う週間は特に意識して取り組む必要がある。
・１年生から６年生の発達段階に応じた年間カリキュラムを今後作成することが大切だと考える。
・鉄棒運動や掃除の際の雑巾絞りなどから、握力を使う場面を増やし、握力を鍛えていく。